

【東郷湖・未来創造会議】

第2回イベント・コンテンツ開発チーム会議 会議録

日 時 平成23年9月30日(金) 午後1時30分～4時10分

場 所 湯梨浜町役場 2階第1・2会議室

1. 出席者

委員) 林原 美穂子、矢信 聡裕、西原 秀昭、小林 優貴秀、松村 康子

河村 祐子、佐々木 靖彦、立木 てる子、堀内 幸子

事務局) 山田 志伸、林 紀明

2. 開 会

(事務局：林)

今日は、色々のご都合が悪い方もありまして、少ない人数になりましたけれども、このチームとして2回目の会議を開催したいと思います。前回の会議録については、皆さんにお送りさせていただいておりますので、ご一読いただいているものと思います。前回のチーム会議では、皆さんから色々ご意見を出していただきました。私なりにテーマごとにまとめたものをお送りさせていただいておりますが、若干皆さんが言われたこととニュアンスが違っているところもあるかもしれませんけれども、おおよそこのような感じだったかなと思っております。今日は、多くのご意見がある中をもう少し集約をして、一つのまとまりで何かしらの意気込みが伝わるようなネーミングを付けて、こういう事業でこういうことをやりますというようなことを煮詰めていくような会議にしたいと思っています。

現在の状況については、このチームは今回が2回目で、社会資本整備チームは20日に予定しておりましたが、台風の影響で延期をしまして今度の月曜日に開催します。火曜日には、観光・物産のチームの2回目を開催するという事で、出てきた多くの意見を少しずつコンパクトにしていくという作業を皆さんでやっていただきたいと思います。前回の会議でもお話しさせていただきましたが、10月14日为一个の区切りということで取りまとめて、28日の第2回未来創造会議では、チームとしてこういう事業をしたらどうかという提案をしていただきたいと思いますので、引き続きご協力よろしくお願いします。

この会議は、色々な方のアイデアを求めるという位置付けをしておりますので、制約があるからできないということではなくて、またもう一つは、前回出た意見を色々考えてみたところこういうことができるんじゃないかということも付け足していただきながら、その思いを表現していただけたらと思っています。それでは、チーム長さんにごあいさついただきたいと思っています。

3. チーム長あいさつ (小林 優貴秀チーム長)

皆さんどうもご苦労様です。今日は、2回目のイベント・コンテンツ開発チームの会議と

ということでお集まりいただきましてありがとうございます。前回の1回目の会議の時に色々な意見を出していただいて、こんなにたくさんの考えや思いがあるんだなあというふうに思いました。本当は、町民一人ひとりから話を聞くことがいいんでしょうけども、この会議の中で色々な意見が出たということは、これを集約していくことによって、今後のイベント・コンテンツ関係の集約ができていくんじゃないかと思います。今日は、短い時間ですけれどもよろしく願いいたします。

4. ワーキングチーム会議

(事務局：林)

今日お渡しさせていただいているものは、前回会議録として送らせていただいたものをもう一度振り返りということにつけさせていただいております。トライアスロンだとか、カヌーだとか、イベントという意味ではくれるんですけども、なるべく分かりやすくするために個別に整理しています。例えば、トライアスロンをするんだけど、イベント関係の部分に書いているような温泉をセットにするとか、特産品をプレゼントするとか、何かしらの結びつきがあったり、付加価値の造成という部分ではつながってくると思います。そういうことを点検していただきながら、再度意見の集約をしていただけたらと思いますので、よろしく願いします。

～ ワーキングチーム会議 ～



グループ討議の様子／イベント・コンテンツ開発チーム

5. グループ討議の結果発表

第1回会議を前提とした追加アイデアの集約、問題点の整理などを行う。

以下は、第2回会議までの全体集約。

[□：アイデア、提言／■：指摘事項など]

【参加体験価値の高いイベント創造】

<イベント全般>

[既存イベントの充実]

- イベントと地元町民との交流をセット
 - ◇ 地元の人との交流、協力のあり方を工夫
- イベントを産業振興につながる時期に開催
 - ◇ イベントが重なってもよい／集中的に実施することも選択肢
- イベントを梨の時期に開催（梨のPR／梨狩り体験など）
- イベントを通じた特産品の販売促進、PR
- 特化される地域資源の活用（温泉／梨）
- 食とイベントとの連携
- 現行イベントの時期に合わせた特産品の開発（逆転の発想）
- イベントが多すぎる
- イベントの同時開催
- 町主催イベントが重なる時期はマンパワーが不足
- イベント日程の固定化（発祥地大会／フラダンス／ベテラン卓球など）
- 昔ほどイベントの時でも販売促進につながらない
- 梨の時期は地区の行事も多く、場合によっては参加しづらい
- 主催者の分散化が必要（負担の軽減）
- 実施主体に町民参加を推進（公募など／要請が限られた団体）、住民力のアップ
- 全国大会は始めることが大変。既存イベントの充実を
- 町民が観覧するための工夫が必要

<トライアスロン関係>

- 子ども／親子を対象としたトライアスロン競技の創設
- 宿泊できるシステムづくり
- トライアスロンは競技の性格上、時期が限定
- スケジュールなどの都合により、梨の時期の開催は困難

<カヌー・ボート関係>

- カヌー体験＋宿泊＋学習ツアーの創設
- レジャー用としてカヌー、ボートの設置
- カヌー体験教室の開催（子ども／一般）
- 橋津川で手作りイカダ体験

◇竹林の有効活用

◇終われば廃棄／環境的な側面

□ドラゴンカヌー大会の河川での開催（両岸から応援／観覧）

■専門的な知識が必要であり、カヌー協会の協力が必須

■地元で普及していない

■地元の子どもたちに体験させることから始めるべき⇒池への思いやりを育てる

■「地元の子どもたちを対象とした体験」⇒「観光客を対象とした体験」へ発展させる

■地元の人が体験していないのに観光客に提供できない

■池から丘側を見る普段とは違った景色を活用すべき／東郷湖を見つめ直す機会

<マラソン関係>

□東郷湖マラソン大会の復活

□東郷湖マラソン大会参加者を対象とした「温泉」「梨」観光イベントの開催

（ポンポン船の活用、梨狩り、入浴、食事などを組み合わせ）

□気軽にできる往復コースの設定

■誰でも参加できるという競技の性格は魅力

■周回道路に歩道が整備されれば、マラソン大会ができる環境が整う／ハード整備との連携

<ウオーキング・サイクリング関係>

□気軽に参加できるスタート地点の複数設定

□休憩できる場所、スタート・ゴール地点の設定

□ウオーキング（観光）＋温泉入浴

□レンタサイクルショップの設置

<イベント関係>

□イベント情報誌の配布

□既存イベントの温泉などのオプションを付与

□スタンプラリーを開催し、応募者に町の特産品を送付

□既存イベント後に地元との交流イベントを開催

□小中学校と連携したイベント企画、実施

□ウオーキング、サイクリングと文化財、植物探訪、探索との組み合わせ

□ヘルシーオリエンテーリングの開催

□「湯梨浜歴史デー」の開催

（歴史講演会／史跡めぐり／歴史上人物のコスプレ／ミュージカルなど）

□マンガサミットと関連付けたイベントの開催

（天女コスプレ／天女サミット／ミス・ミスター天女コンテストなど）

□旅行会社との連携によるツアー造成（湯めぐりツアー、食ツアー、散策ツアーなど）

□御冠山絶景ビュー展望散策

□「縄文海進が創った貴重な潟湖」を大切に保護するための啓発イベントの開催

◇トウテイランの自生地、古墳群との連携

- 「東郷湖一周を住民が手をつなぐ」イベントの開催
 - 一回のイベント形式では継続性がない。
 - 「東郷湖一周ロケット花火」イベントの開催【環境保全の面からも削除】
 - 東郷湖水泳大会の開催（汚くても泳げる）
 - 東郷湖周辺の耕作放棄地を利用したイベントの開催
 - 競技種目を決め、大学や高校のスポーツ合同合宿イベントを開催
 - 四季を通じた「食」のイベントを開催（旬の特産品を食材に使用）
 - 倭文神社（下照姫命：安産／織物の神様）と羽衣石（天女伝説）をつないだ女性のためのイベントを開催
 - 女性と緋のコラボ「働く人のファッションショー」を開催
 - 温泉の女性限定無料開放デー（イメージアップによる女性の集客）
 - 温泉地への町民限定割引デー（地元還元による集客）
 - 朝市の開催
 - ◇地元野菜などの販売、生産者への還元システムの構築
 - 地元の人を買わないようなところには観光客は行かない
 - 郷土料理復活大作戦イベントの開催
 - ◇おばあちゃんに本物の郷土料理を作ってもらい、試食
 - ポンポン船の復活
 - 地域に根差した既存イベントの充実、宣伝（松崎三八市）
 - 燕趙園の活用
 - ◇周辺にある地域資源との連携（野花豊後の花など）
 - ◇町民限定の割引デー（色々な情報が町民に伝わっていない）
 - ◇道の駅の有効活用
 - 地元の人が行きやすい環境整備が必要（地元産農産物、海産物など品揃えの充実）
 - 周辺に案内看板が必要
 - 既存イベントを充実するため、地元の人への情報提供を
 - イベントを一部の人だけの開催ではなく、町全体でもっと共有していけるよう関わり方、参加の仕方を考えることが必要
 - 地元の人イベント情報を知らないことが多すぎる
- <イベント／梨関係>**
- 「全国一の梨産地」（町の特色としてPR）とイベントとのリンク
 - 全国から参加者があるハワイアンフェスティバルなどのイベントを梨の収穫時期に変更
 - ⇒梨の販売促進、知名度アップにつなげる
 - 既存イベントと梨の作業や収穫体験をリンク
- <新規イベント関係>**
- 東郷池まつり
 - ◇マラソン、ウォーキング、サイクリング、イベント、歴史解説、環境活動、食・・・様々

な要素の活用、連携イベントづくり。⇒山、里、海の連携

◇東郷池と「浜」の連携活用／泊の海産物

◇既存のモノやコトなどを活かしながら、東郷池の周囲で分散開催。東郷池の魅力を集約する。ある程度の期間を視野。／東郷池週間、月間

◇地域全体を活かすことが前提。東郷湖、梨、温泉、歴史資源・・・。

地域資源をつなぎ合わせた新たなイベントの創造、或いは既存イベントの充実

<サミット・シンポジウム関係>

潟湖サミットの開催

シンポジウムの開催

◇町出身者の外から見た東郷湖

<体験プログラム関係>

都会の子どもたちをターゲットとした参加・宿泊型学習システム

◇歴史・農業体験

◇親子で参加する仕組みづくり

◇地元の親子との交流イベント

都会の家族を呼んで宿泊体験

◇地域との交流

◇海、川、湖遊び

湖上温泉、露天風呂体験（東郷湖の中）

「カヤックの旅」体験（東郷湖／川）

各種体験

◇舌つつみ体験

◇みどり体験（グリーンツーリズム）

さくら工芸品工房の体験教室を活用（女性の体験できる場の確保）

<情報発信、宣伝関係>

HPだけではなく、インターネットを活用した宣伝（ヤフーなど）

観光宣伝をもっと大きく

県内の主な観光施設にポスター

【町民参加の共育・協働システムの構築】

<自然景観・歴史文化関係>

東郷池の自然と歴史・文化遺産探訪ツアーの創設

用途別：ウォーキング／サイクリング／車

コース別：半日コース／1日コース

参加者別：個人／団体／ツアー客

展示会・講演会の開催

◇「全国御倉サミット in 湯梨浜」の開催（橋津藩倉）

- ◇文化財里帰り展示・講演会（銅経筒／銅鐸／馬ノ山4号墳出土品／東郷荘絵図など）
- 野花豊後花まつりの開催
- 藩倉まつりの開催（骨董市／テレビ番組の誘致）
 - ◇昔を忍ぶ写真の展示
- 文化財など歴史資源の有効活用
 - ◇歴史探訪ツアー
- 埋もれている歴史・芸能の復活（赤とんぼ／葉茂し歌－橋津藩倉）
- 縄文海進マップの作成
- 地域の物語や伝説を題材にした舞台・演劇
- 地域の物語や伝説本を作成

<テーマごとのコースづくり関係>

- 季節ごとのツアーコースの選定
- 季節の花コースの選定（野花豊後／トウテイランなど）
- 健康コースの選定
- 体験コースの選定
- 歴史コースの選定
 - ◇東郷荘絵図実感コース
 - ◇下照姫命コース
 - ◇羽柴秀吉・吉川元春対峙コース
 - ◇歴史・文化財コース（古墳／仏像など）
 - ◇歴史上の人物、物語をめぐるコース
- 解説書、案内図、案内板の整備
- 古墳など歴史文化資源が整備されておらず気付きにくい

<システム構築関係>

- 湯梨浜検定の開催
- 湯梨浜町の歴史・文化財検定の開催（小中学生用／大人用）
- ボランティアガイドの養成、システムづくり
- ゆりはま塾養成者の活用
- ボランティアガイドの登録制
- 文化財解説員の養成
- 住民主導で組織することも必要
- 養成後の活躍の場を確保することが必要
- 町職員に関心、興味がないことが問題（文化財／伝統文化など）－専門職の配置

<NPO関係>

- NPO組織の育成に係る勉強会の開催

<講演会関係>

- 協働推進講演会、勉強会

- ◇協働とは何かを考える機運を醸成
- ◇住民の参加意識の高揚
 - 提言だけでは、町は活性化しない
 - 町民から声が出て、町民が主体となる活動を大切に
 - 参加する人はいつも限られている
 - 町民からのアイデア、提言がないという下地がある
 - 成功例ができれば次に広がっていく

【その他／他のワーキングチーム関連】

- シジミ公園の整備（既存の公園の活用／エリア設定）
- 子育て支援プロジェクト「湯梨浜版」の整備
- 環境問題にもっと取り組み、町ぐるみでモデル地区
- ウオーキング、サイクリング道路の整備
- 温泉地内の道路の両側にバリアフリー型の歩道設置
- 湯治温泉場の建設
- 常時利用可能な足湯ポイントの増
- 案内板の整備（総合、個別）
 - ◇イベント参加者に東郷湖周辺の名所（景観など）アンケートを取り、「ベスト〇〇」の紹介看板を設置
- 駐車場の確保
- トイレの設置
- 東郷湖周遊バスの運行
- よく見えるところに道の駅を建設
- 電気自動車充電スポットの整備
- お土産の開発
 - ◇藩倉の模型
 - ◇藩倉瓦せんべい
 - ◇経筒モナカ（アン：野花豊後／二十世紀梨など）
- 泊港の活用
 - ◇地元産の海産物販売店
 - ◇レストラン
- 魚を使ったイベント販売だけでなく、そこで食べることができる体制づくり
- シジミたまご
 - ◇ニワトリにシジミの殻を食べさせることで特化する
- シジミ料理（湯梨浜町に来ないと食べれない、味わえない）
- 東郷湖の「フナ」をブランド化
- 旅行会社への計画的な売り込みが必要（旅行会社との連携による集客）

- 何を売り込むのかを明確にする必要
- 景観だけでなく、湖中の環境浄化に注意を向けるべき。見た目の「きれい」だけではダメ
- TCCに防災の避難所が載っていない
- 漁業権があっても、漁業組合の活動でシジミが守られていると思えばよい
- アクセスが悪いのは、反対に考えれば「はるばる来たぜ感」が味わえる。ここしかないものがあれば大丈夫
- 住んでいる私たちが水のきれいなこと、空気もいい、食べ物も安全、安心して暮らしやすいということを喜ばばよい
- 道の駅の工夫が必要
- 道の駅はわいの周辺や敷地内が汚い（草／ゴミなど）



グループで議論した結果を発表

(西原委員)

まとめとしては、前回と2回目の話を総括でまとめる形になります。今日、限られた時間で全部前回の話が掘り出せなかったんですけど、特にイベント関係で色々前回出ている部分で、会議録に記載している中で具体的にできるんじゃないかということで、総括としてはあげられるんじゃないかと思います。前回あがっていた既存のイベントを地域資源と結び付けながら膨らませていこうということですね。新たにイベントを一つにまとめて、東郷池まつり、或いは月間ということでもくれるんじゃないかと思います。藩倉まつりもありましたね。

(小林チーム長)

思うのに、テーマごとのコースづくりと書いてありますけれども、スポーツはスポーツ、歴史的なこと、健康のことなど書いてありますが、季節に合わせたツアーというのもある程度コースとか色々なものをおかみ合わせてするのが、梨だけじゃない特産品はある訳ですし、人をどういうふうにしたら呼び込めるかということ、競技をしている人だけじゃなくて、地域の人も大事だけれども、都会から子どもや家族を呼ぶ体験学習をもっとした方が、将来的にはそういう人たちがまた帰ってくる可能性の方が多いと思うんですよ。そのあたりも、一つの体験の何かを、カヌーでもいいですし、何でもいいから組み入れてもらえればいいと思います。

(西原委員)

それは、住民向けの体験ですか。

(小林チーム長)

住民外です。住民は住民でするのはいいんですけど、住民ばかりしていてもいけない訳だから、外からどうかして人を集めなければいけないのもある訳だから、それはやっぱり、どこかの民宿などに宿泊しながら体験してもらえば、地域との交流ができるしね。

(佐々木委員)

大きく言って最後まとめられたように、イベント・コンテンツのグループだから、コンテンツというのは、中身、内容ですよ。ですから、従来あったものを改善、改良すると、拡大、拡充していくという見方と、それから、新しいイベントをして、こういうイベントを考えるんだと、そういう大きな二つのまとめ方もあるのかなということです。最後言われたような形でもいいかなと思います。そういう中に、今言われた問題も入れていくということでもいいと思います。

(西原委員)

この具体的にあがっているイベントは、全部提案する方向でもいいんですよ。具体的に藩倉まつりということもあったんですけど。

(事務局：林)

チームの方の総意ということであれば。

(佐々木委員)

大きくまとめて出すという形で、先程の東郷池まつりというのはいいと思うんですよ。藩倉まつりも個人的に思っていることは、色々なことを加味した一つであって、葉茂し歌の復活なども含めて、そういうことも含めた中での大きなおまつりということでもいいと思います。

(西原委員)

総合イベントということですね。

(佐々木委員)

一方では、ボランティアガイドのシステムづくりというか、組織づくりというかですね。

(西原委員)

それに食も含めていくということですね。

(小林チーム長)

東郷荘絵図に載っているところを歩いたり、歩くのも、走るのも、食べるのも、話を聞くのも散りばめて行って、それを定期的にやっていくということですね。

(堀内委員)

ところどころに泊の魚も料理してもらって。

(佐々木委員)

大きく東郷荘絵図まつりとか、とにかく知名度があるものを冠にもっていった方がいいですよ。東郷湖も大きいけど。

(小林チーム長)

一度、絵図の話し合いがありましたよね。3年ぐらい前ですかね。

(立木委員)

公民館に東京大学の先生が来て発表会がありました。

(小林チーム長)

そういうことを定期的にやっていけばいいですよ。地元の人も来ていましたし、地元でなくても興味がある方はたくさん来ていました。松崎のまちなかを歩いて、いいところだと。

(佐々木委員)

そういう新しいイベントも発信できたらいいですね。

(河村委員)

一つお願いがあります。マンガサミットがあって、その概要や規模などを調べていただくことができたらと思います。そういう大きなイベントの時に利用しないことはないなと思っているので、やっぱり概要や規模などが分からないとこちらがどういうふうに打って出ているのか分からないので、それを知りたいです。具体的に何ができるかということ考えた方がいいと思います。

(佐々木委員)

植樹の全国大会もありましたね。そういうのもその時に合わせて利用するとかね。

(堀内委員)

春、東郷湖の桜がすごくきれいじゃないですか。一部だけではなくて、例えば片面でもいいから湖沿いをずっと海まであればいいですね。

(佐々木委員)

東郷荘絵図の特に南谷のカーブ、あれは貴重なんですよ。そこから橋津川に行くようなあたりまで桜を植えてもらえば、東郷荘絵図のビジュアル化と言っています。その他のことを含めて地元住民が意識できますよね。750年前の形跡がまだ残っているというね。

(堀内委員)

ある程度、部分的にも統一感があつた方がいいですね。あつちにこの木、こつちにこの木ということではなくて、ここのルートは同じ木が植えてあるとかね。湯梨浜町の花はトウテイランですね。アロハホールにトウテイランを植えたらどうかと思います。イベントなどで

色々来られるので、湯梨浜町の花だということで植えた方がいいと思います。

(河村委員)

湯梨浜町の鳥はサンコウチョウですよ。見たことがないですよ。

(佐々木委員)

それはやっぱり、玄関のところに貼っておく方がいいですよ。

(松村委員)

サンコウチョウの鳴き声も、町長さんも今年初めて聞いたと言っておられましたね。私たちもなかなか聞いたことがないです。

(事務局：林)

とりあえず、1回目の会議で色々具体的なご意見をうかがっています。それはそれとして、このチームの提案だという捉え方をさせていただきたいということ、もう一つは、今日お話ししていただいたことというのは、既存イベントや新しいイベントを含めてイベントをする上での総括だということの認識をもっています。ですから、例えば温泉だとか、地域の資源とイベントとを結び付けるということや産業振興につなげていくということなど、付加価値を付けていくという思いだったように見受けました。それから、大きなものとしては、協働ということがよく言われますが、皆さんがその協働という意味を認識していますかということ、それをここにいらっしゃる皆さんだけではなくて、多くの町民の方に波及させていかなくてはいけないということ、それがイベントということになるかどうかは分かりませんが、何か機運を高めていく取り組みをやったらどうかということがありました。後は、東郷池まつりということで、色々なイベントを集中的にやるというか、色々な事柄を結び付けるということで、これは具体的な提案ということで受け止めています。前回の会議の中で、例えばトライアスロン関係では子どもを対象とした競技を創設したらどうか、カヌー関係では宿泊や学習体験をセットにしたらどうか、そういうこともチームとしての一つの提案として捉えることも可能ではないかと思います。ウォーキングとか、サイクリングについては、前回の会議でコースづくりだとか、スタート地点、ゴール地点を設定したらどうかというお話もありましたので、そういうことからすれば、イベントということで大きくまとめてしまうことも大切かもしれませんが、普段から東郷湖を中心とした魅力あるコースづくりをしておけば、イベントでなくても大いに活用できるということもありますので、この視点も必要なのかなと思います。イベントの関係で温泉などのオプションを付けたりというのは、付加価値を付けるという部分の中でまとめたらどうかと思います。その他、イベントの関係で具体的な話があったのは、食の関係のイベントがあったと思います。それに合わせて郷土料理のことがありましたので、食というテーマでまとめることができるんじゃないかなと思います。先程、協働の講演会という話がありましたので、サミットというか、シンポジウムというか、マンガサミットなども含めてそういう取りまとめもできるんじゃないかと思いません。また、チーム長がおっしゃったような参加、宿泊型の学習システム、農業体験であったりとか、宿泊体験であったりとか、歴史体験であったりとか、そういう体験プログラムを構築するということが今、現状としてできていないですから、それらでまとめることができる

のかなと思います。町民参加の共育・協働システムの構築というところで、歴史講演会の開催だとか、藩倉まつりだとかも一つの要素かと思いますが、テーマごとのコースづくりということで、季節ごとのツアーコースを設定したりとか、色々なテーマに基づいたコース設定だとかという考え方も一つできるのかなと思います。そういうことで、大枠として一応事務局の方でまとめさせていただいて、それを皆さんにお返しさせていただくということで、その上でより具体的にという話になればまたお集まりいただくということでよろしいでしょうか。後は事務局サイドで調整させていただいて、資料には第1回会議の時のことを具体的に書いておりますが、全部が全部ということにつながっていかないと思いますので、その中からより具体的なものをピックアップして、このチームとしての提案、中間総括ですのでまだまだきっちり固まったものではないと思いますけども、取りまとめをしたいと思います。ご了解いただけますか。

<了解>

今日が30日ですので、来週中ぐらいに皆さんにお送りさせていただくということで、最終的にはチーム長とご相談させていただいて、その上で必要だということになれば改めて連絡させていただくということでお願いします。急に具体的な事業を提案するとなるとなかなか難しいと思います。中間総括の後により具体的なところでピックアップされていくと思いますし、その他の要素が加わって、それを充実させていくということも出てくると思いますので、とりあえずのところ、今皆さんからいただいた意見というのを集約して、次の未来創造会議で提案するという方向でお願いしたいと思います。28日の会議日程は決まっておりますので、その過程の中で必要であれば連絡させていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

(小林チーム長)

皆さん、今日のご苦労様でした。ある程度まとまったような格好ですけども、まだまとまってないところもあるかと思いますが、それについてはまた事務局でまとめていただいて、皆さんのところにお届けしていただいて、もう一度検討しなければいけないようであれば、また皆さんにご足労を願って、少しでもいいものに仕上げていきたいと思いますので、その節はご協力をお願いしたいと思います。今日は、どうもご苦労様でした。